“living our dream” Tour in the U.S.A

アドベンチャーライダー jasmine T Cardwell の

PHOTO&TEXT／jasmine T Cardwell

今月から始まるのは、アメリカで生活しているガールズバイカーjasmine T Cardwell さんのアドベンチャーライディングレポート。普段知ることができない過酷で、でもエキサイティングなバイクライフが楽しみです☆

本名：**晃良** [テルミ] **Cardwell**（36歳）

出身:愛知県豊橋市

特技:サーフィン、ゴルフ、武道（剣道二段、居合道四段、杖道参段→武道をやっていた経歴より、侍ライダーを名乗っています。）

バイク:BMW F650GS

www.samurai-rider.com

jasmine@samurai-rider.com

Adventure Rider とは何者!?

はじめまして、アドベンチャー・ライダーのjasmine T Cardwell（ジャスミン・T・カードウェル）です！　この度、アメリカでの私のアドベンチャー・ライディング経験を、誌面で毎月少しずつ紹介させて頂ける機会に恵まれました。まずは自己紹介をしつつ、私がアドベンチャー・ライダー（以下ADVライダー）になったきっかけをご紹介させてください！

まずADVライダーというのは…。どんなに険しい山道も、砂漠も、森の中も、川の中も、大都会も、秘境の地も、如何なるコンディション＆天候であろうが、自動二輪車に必要最低限かつ必要最大限の全てと夢を積み込んで、世界中をひた走る、夢人のことを言います。

☆ADVライダーに変身したきっかけ…

現在の旦那であるマイケルの影響をがっつりと受け、2011年1月にアメリカで自動二輪の免許を取得しました。きっかけはマイケルとのデート。バイクの後ろに乗せてもらい、ツーリングに出かけた際に、山道で車酔いならぬバイク酔いをしました。元々車には酔いやすい体質なのですが、バイクの後ろに乗っても酔うことが判明。「もう後ろに乗るのはイヤ！　自分で運転すれば酔わなくて済むぢゃんね！　じゃあ、免許取ろ～！」この流れでバイクの免許取得を決意しました。

免許を取得する約2年半前迄は、私はバイクに関して何の興味もありませんでしたし、むしろ、自分が大型バイクに乗る事になるなんて想像すらしていませんでした。とは言え学生時代は原付に乗っていたので、バイクに乗るバランス感覚は体に染み付いていたようで、教習所での実技講習とテストはすんなりパス！　しかし、筆記試験で悪戦苦闘しました。カリフォルニア州の免許センターでは、車の免許試験は日本語があるのですが、自動二輪の免許は英語の試験だけしかなく、バイクの専門用語を英語でなんて初めて耳にするわけで、言葉の壁が高く立ちはだかりました。同じ頃実技の講習を受けた生徒達より、約半年遅れてどうにかこうにか免許を取得。勉強嫌いの私ですが、この時ばかりは必死に勉強（ほぼ暗記!?）しました。何はともあれ、取得してしまったらこちらのもの!!

免許取得後、彼のライディング魂が私にも少しずつ転化し、すぐにADVライディングの為の練習（ワインディングロード、オフロードクラスの受講、マイケルの個人レッスン、プチ遠出等）を重ね、2012年5月中旬から7月末の約2ヶ月半に渡り、私にとっては初めての本格的な、そしてADVライディングとは何なのかを知る旅をしてきました。

この2ヶ月間で訪れたアメリカを中心に、jasmine目線で見るThe United State of Americaの魅力を皆様にお届けします！

さてここからは、馴染みはあるけど、知っているようで知らないアメリカ合衆国、カリフォルニア州（以下CA）、そして現在私が住んでいるサンディエゴ（以下SD）という街をバイク事情を絡めて紹介していきましょう！

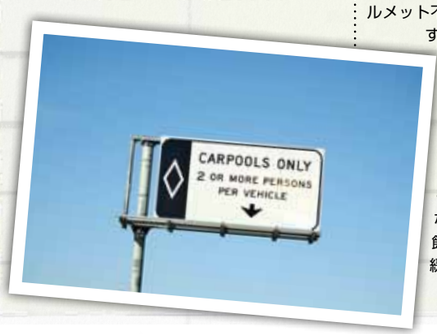
=アメリカ=

アメリカは全50州からなる合衆国で、人口は約3億2千万人、日本がすっぽり25個分入ってしまう広さです。本当にアメリカは広いですね!!

そんなアメリカは、国が定める法律は元より、州によっても法律が異なります。バイクに関する法律に焦点を当てると、州によってヘルメットを着用しなくてもよい州が驚くほどたくさんあります。今回の旅で分かったことですが、なんと31もの州がヘルメット不着用でバイクに乗ってもいいですよ、という法律なのです！（その州の中でも、21歳未満のライダーには着用を義務づけている州が多くあります）ちなみに私の住むCA州は着用が義務づけられています。

さらに、アメリカは車社会！　そのためロサンゼルス（以下LA）などの大都会では、渋滞は日常茶飯事です。そんな渋滞を少しでも緩和することが最大の目的で設けられたカープールレーン（HOV Lane = High Occupancy Vehicles）というものがあります。これは通常運転手を含む2人以上が同乗している車なら、そのレーンを走行しても良いという法律で定められたレーンなのです。ありがたいことに、ここはバイクの走行も許可されています。主にCA州をはじめ、アリゾナ州、フロリダ州、オレゴン州、ニュージャージー州、ニューヨーク州など、20州に存在します。

初のADVライディング練習、6泊7日で往復1,600km…マイケル先生お手柔らかに



ヨセミテ国立公園は、今まで私が訪れたアメリカの国立公園の中でもTop３に入るお気に入りの場所。私が訪れた７月下旬、観光シーズン真っ只中のヨセミテは凄い人、人、人そしてキャンピングカー！

私が見た標高サインの中での最高は10,000feet（約3,000m）で、さすがに標高が高い為、夏場なのにひんやりとしており、砂漠地帯をひた走ってきた私には最高の気候でした。標高4,000m付近には残雪が見られ、美しい川と、セコイアの木々の香りが自然と心を癒してくれます。

ヨセミテに到着した午後１時には、もう既にキャンプサイトは満員で、それでも少なからずの望みを託し、オフロードを走ること6.5km。電気も水道設備も何もない野生的なキャンプサイト、ヨセミテクリーク・キャンプグラウンドは幸いにもまだ空きがあったので、そこで２泊。（場所によっては予約ができるキャンプサイトもありますが、シーズン中は"First-come First-served"と言って、先着順にキャンプサイトを貸し出すところが多いです。）

ADVライダーたるもの、キャンプをするのが基本です。とは言っても今回の旅は、私にとって練習の旅だったので、７キャンプ：３ホテルというぬるい感じでしたが…。

電気も水道もない、ワイルド・キャンプはヨセミテともう1か所、グランドキャニオン国立公園だけだったので逆に新鮮でしたし、ヨセミテの本来の美しさを体感できたと思います。

夜の星空は最高に綺麗で、テントの中から眺める夜の世界は格別でした。虫の鳴き声と風が木々の葉をこすり合わせ奏でる自然界の音は素朴で、日常を逸脱した感覚に浸りました。

とは言いながら実際は、標高が高いので夜は特に肌寒く、ジャージを着て寝袋に包まり、日没と共に眠り、日の出と共に起きるという、原始的な２泊でした…。けれども本当に癒されました。

第１回目いかがでしたか？　こんな感じで、ADVライダーjasmineが見て、触れて、感じたアメリカを皆様に紹介していきたいと思っています。

ここで、jasmineお勧めSDのツーリングスポットをご紹介しましょう！　州道94号はダウンタウンSDから南東部に向かうメキシコとの国境付近の山間部で、緩やかなカーブが続く約65miles（105km）のお勧めのショートライディングスポットです。初心者には練習にもなるカーブが丁度良く、途中、アップルパイで有名なジュリアンという小さな町があり、サンドウィッチとアップルパイ・アラモードを食し、帰路に向かうのが私の定番コースです。

週末には４～５箇所に決まってカメラマンが構え、ライダー達の写真を撮っています。（後にインターネットで購入できるので有難いです。）

ADVライダー目線で見たカリフォルニアを紹介!!

LAの北東部に広大に広がるモハビ砂漠を走り抜け、CAを北上していくと、右手にはデスヴァレー国立公園が、左手には絵に描いたような美しいシエラネバダ山脈が姿を現します。その丁度中間を走る国道395号を、サンバーナーディーノから約350mile（約550km）北上すると、世界遺産にも登録されているジャイアントセコイアで有名なヨセミテ国立公園に到着します。

この旅では、あえてデスヴァレーには行きませんでした。本当に死んでしまうかもしれないと思ったからです。大袈裟かもしれませんが、デスヴァレーはその名の通り激しい乾燥砂漠地帯で、私がライディングをした時期は７月下旬、最高気温45℃にもなる気候でしたし、旅の終盤で体力的にもかなり過酷な状態だったので、今回は見送りました。

=サンディエゴ=

SDはCAの最南部に位置し、人口約130万人、CAの中ではLAに次いで2番目に大きな都市で、アメリカの中では８番目に大きな都市です。（余談ですが、佐世保市と横浜市が姉妹都市です。）メキシコが隣接している為、ヒスパニック系の移民が多く、多くの人がバイリンガルでスペイン語が多く飛び交っています。メキシカンフードレストランが多く、とてもリーズナブルな値段で本格的なタコスやブリトーなどを食べることができます。

メキシコの街、ティファナまではSD中心部から車で約20分程、国境を越える際は、SDに車を駐車して徒歩で越えられます

年間を通して穏やかな気候に恵まれており、　平均最低気温～最高気温は10～30℃。乾燥していて降水量は少なく、雨季と言われる時期はありますが、しとしとと一日中雨が降るということは滅多にありません。SDでは「May Grey, June Gloom」というフレーズがあります。「5月は灰色の空、6月は暗がりの空」という意味で、そのフレーズ通り、5月～6月は曇っている日が多いです。そしてサーフポイントの豊富さは、サーファーにとってはたまらない環境でしょう！　しかし、水温は一年中冷たく、夏でも薄手のウエットスーツを着用しないと海に入れない日がほとんどです。温厚で親切な人が多く、「東の楽園マイアミ」に対し、「西の楽園サンディエゴ」と言われています。

=カリフォルニア州=

CAはアメリカで３番目に大きな州で、人口は全50州の中で最も多く、約3,800万人、様々な人種の人々が暮らしています。白人人口がCA州全体の約70%を占めていて、日本人移民もかなりたくさんいます。州都はLAと思いがちですが、サンフランシスコの少し北に位置する、サクラメントというところです。多くの国立公園、州立公園が存在し、山、川、海に囲まれた自然豊かな美しい州です。